

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年 6月 12日現在

機関番号：34504

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2008～2011

課題番号：20330029

研究課題名（和文） 人間、国民、市民－市民社会、ナショナリズム、グローバリズムと新しい政治理論

研究課題名（英文） Humanity, Nationality and Citizenship: Civil Society, Nationalism, Globalism and New Political Theories

研究代表者

岡本 仁宏（OKAMOTO MASAHIRO）

関西学院大学・法学部・教授

研究者番号：20169155

研究成果の概要（和文）：

冷戦後の世界において、多くの人びとは我々の政治理論・社会理論が動揺する世界秩序を把握する言葉や構想を持ちえていないことを感じているという現状認識のもとに、近代政治理論における政治主体の基本用語の可能性と限界を追求した。「人間、国民、市民」（ヒューマニティ、ナショナリティ、シティズンシップ）という基幹的主体用語を中心に、「市民社会、ナショナリズム、グローバリズム」という三つの政治思想との関連において、その妥当性を検証し、既存概念の限界を指摘すると同時に、それらに代わる政治主体の可能性を検討した。

研究成果の概要（英文）：

After the end of the cold war, many of the people feel that the political theories and social theories we have now could not grasp the unstable world we live in. This project attempted to scrutinize three fundamental concepts, that is, humanity, nationality, and citizenship, in relation to three political ideology, civil society, nationalism and globalism. We have clarify intrinsic limits of those categories and suggested several possibilities of new concepts.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	3,000,000	900,000	3,900,000
2009年度	3,100,000	930,000	4,030,000
2010年度	3,400,000	1,020,000	4,420,000
2011年度	4,700,000	1,410,000	6,110,000
年度			
総計	14,200,000	4,260,000	18,460,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：政治学・政治学

キーワード：市民・国民・市民社会・ナショナリズム・グローバリズム・シティズンシップ・政治主体・政治学

1. 研究開始当初の背景

20世紀末、冷戦後の世界において、多くの人びとが感じている世界秩序の安定感の喪失は、我々の政治理論・社会理論が動揺する世界秩序を把握する言葉や構想を持ちえていないことに対応している。このような現状認識のもとに、本研究の前段階として行われた「政治理論のパラダイム転換」を課題とする

共同研究企画を発展的に展開するものとして、特に政治主体に焦点を当てて研究するために、本研究プロジェクトは開始された。

2. 研究の目的

本研究の全体的構想は、上記の研究状況を前提として、特に、近代政治理論において継

承された政治主体の基本用語の可能性と限界を追求し、我々の状況を把握し切り開く新しい言葉を構築することを目的とした。

3. 研究の方法

上記の目的を追求するために、具体的には、第一に、「人間、国民、市民」(ヒューマニティ、ナショナリティ、シティズンシップ)という基幹的主体用語を中心に、これらの主体用語を、「市民社会、ナショナリズム、グローバリズム」という三つの政治思想との関連において取り上げること、及び第二に、政治理論のレリヴァンスに注意を払い、理論的革新とともに、今を生きる人びとの苦しみや惑いに答える政治理論の可能性の探求を行うこと、を目指した。

このために、これらのキーワードを常に意識しつつも、1、研究参加者の幅を、アリストテレス研究者から環境政治理論の研究者に至るまで幅広く得ようとした。2、理論研究にとって最も基本的な方法である文献研究を重視した。3、理論研究者が陥りがちな社会的現実との乖離に対処するための「現場」への視察・聞き取りを行った(大阪市釜ヶ崎地区、静岡県浜松市、東北大震災被災地)。そして、4、合宿を行いゲストを招き相互の報告を行い濃密な討論を行った。さらに、5、日本政治学会でのセッションの形成などによって広く公開の討論の場を持った。

4. 研究成果

13人の共同研究であり、その範囲は広範囲に渡っている。研究分担者の著書、論文合計は、優に100本を超えており、これらの諸著作全体の研究成果を単純にまとめることは到底不可能である。

とはいえ、いくつかの基本的な軸にそってこれらの研究成果をまとめることができるだろう。

第一に、国民概念やそれを支えるナショナリズム、さらには様々な形でのコミュニティとそれに伴う集団的アイデンティティの問題、さらには人間の共同性をどのように政治主体の問題として表現していくか、という議論がある。

この議論は、もちろん、単純で無自覚的なナショナリズムや近代における諸個人のもつ個的な主体性を正面から否定して集団への没入を称揚するような政治主体像を提起することではない。新自由主義のような市場の礼賛に対して、たとえば、いわゆるリベラル・ナショナリズムの評価を巡って、また市場や個人主義的な人権概念の限界に関わるコミュニタリアニズムの政治思想的意義をめぐって、議論が深められてきた。そこでは、

compassion やパトリア、共通善など、様々な形での理論的遺産の発掘も行われてきた。

第二に、他方では、市民概念やそれを支える市民社会論を巡る議論から、日本における新しい非営利団体の法制改革も踏まえ、どのように国家が表現するような公共性論の在り方を位置づけることができるか、という論点や、プライベートイゼーション(私化)からさらには「弧化」と言ってもよい人の結びつきの希薄化の可能性とどのように向き合うことができるか、について、様々な実践を踏まえて、議論を深めてきた。そこでは、「大衆社会」論との緊張関係のなかでのかつての理論創造の営み、民主的政治主体の形成の営みの検証や、古代ギリシャに至るまでの市民概念の歴史的再検討などによって、新しい可能性を見出そうと試みられてきた。

これらの営みは、さらにアリストテレスの理論の読みかえしなど、従来の政治思想の基本的前提となっている知的遺産を再構築する必要性も提示することになった。

第三に、さらに、フェミニズム、エコロジーなど、従来の解釈に基づく近代的な問題設定を超える問題の磁場のなかでの政治主体の追及に関する議論もなされてきた。

明らかに、これらの問題群が、一方では近代資本主義社会の爆発的な生産力の解放のもとで地球的規模での破壊を可能にする力を手にした人類的課題の意識化によって、他方では、文化的「生物学」的な属性を対象化する批判的探求が性という人間の基本的なアイデンティティフィケーションの水準での意味を問い直す営みによって、政治思想の新しい地平を切り開いていることを確認した。さらに、そのうえで、特にエコロジーの視点からはどのような形でこの問題を担う政治主体が形成可能かについても議論がなされてきた。

以上のような理論的検討の様々な試みは、下に挙げるような各自の研究業績の産出や共同研究の成果としての報告書の作成などの形で、公表されている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計34件)

- 1) 寺島俊穂「市民政治の創造——市民社会論を基底にして」関西大学『法学論集』、査読無、第61巻第6号、2012、pp.1-53。
- 2) 的射場敬一「統治による平等から平等による統治へ——古代アテナイにおける法の支配の確立——」『政治研究(国士舘大学)』、査読無、3巻、2012、pp.101-131。

- 3) 的射場敬一「プリユタネイオンを探して」『政経論叢 (国士舘大学)』、査読有、159、2012、pp.73-104。
- 4) 岡本仁宏「東日本大震災被災地・者に、市民はどのような支援活動を行ったのか」『国際経済労働研究所, Int'lecowk』、査読無、2012年3月号1018、pp.12-20。
- 5) 杉田敦「社会と境界」『未来』未来社、査読無、2012-2、2012、pp.18-26。
- 6) 木部尚志「信仰の論理と公共的理性の相克——ロールズの公共的理性論の批判的考察」『早稲田政治経済学雑誌』、査読有、381/382、2011、pp.42-57。
- 7) Naoshi KIBE, "The Relational Approach to Egalitarian Justice: A Critique of Luck Egalitarianism" *Critical Review of International Social and Political Philosophy*, vol.14, 2011, pp.1-21.
- 8) 山崎望「ポスト・リベラル/ナショナルな福祉をめぐる—現代民主主義論の観点から」『政治思想研究』(風行社)、査読有、第11号、2011年、pp.24-54。
- 9) 丸山正次「環境的シティズンシップのタイポロジー」、山梨学院大学法学研究会『法学論集』、査読無、第68号、2011年、pp.241-279。
- 10) 岡本仁宏「NPOの政治活動の活性化に向けて」『ボランティア研究』査読無、創刊号、社会福祉法人大阪ボランティア協会、2011、pp.3-12。
- 11) 荒木勝「アリストテレス政治哲学研究の諸前提」岡山大学『法学会雑誌』、査読無、59巻、2010、pp.33-81。
- 12) 菊池理夫「マイケル・サンデル著/鬼澤忍訳『これからの正義の話をしよう—いまを生き延びるための哲学』」『公共選択の研究』、査読無、第55号、2010、pp.71-74。
- 13) 寺島俊穂「市民自治と現代都市」、関西大学経済・政治研究所『セミナー年報 2009』、査読無、2010、pp.1-15。
- 14) 的射場敬一「古代ローマにおける『市民』と『市民権』」『国士舘大学政治研究』、査読無、1、2010、pp.97-116。
- 15) 山田竜作「フェミニズムとデモクラシー理論—キャロル・ペイトマンの再検討を中心に」『政治思想研究』(風行社)、査読有、第10号、2010年、pp.98-129。
- 16) 岡本仁宏「市民社会論と民族：市民社会とナショナリズムとの関係の探求のために」『彦根論叢』(小西中和教授退職記念号)、査読無、滋賀大学経済経営研究所、383号、2010、pp.77-100。
- 17) 山崎望「世界秩序の構造変動と来るべき民主主義」(1,2,3,4・完)『駒澤法学』、査読無、第9巻第1号、2009、pp.1-42;『駒澤法学』、査読無、第9巻第2号、2009、pp.43-59;『駒澤大学法学部研究紀要』、査読無、第68号、

- 2010、pp.1-25;『駒澤法学』、査読無、第10巻第2号、2010、pp.67-140。
- 18) 千葉眞「政治と暴力について——一つの理論的考察」日本政治学会編『年報政治学2009-II』特集・政治における暴力』、査読有、54/II、2009、pp.11-30。
- 19) 寺島俊穂「市民活動とシティズンシップ」『関西大学法学論集』、査読無、58巻6号、2009、pp.1-52
<http://ci.nii.ac.jp/naid/110007153178>
- 20) 的射場敬一「『シティズンシップ』概念の歴史的考察—古代・中世・近代」、国士舘大学『政経論叢』、査読有150号、2009、pp.61-89。
- 21) 杉田敦「法と暴力・境界画定/非正規性をめぐって」『年報政治学』、査読有、2009年第2巻、2009、pp.166-181。
- 22) 杉田敦「敵対性はどこにあるのか—シャンタル・ムフ『政治的なものについて』をめぐる」『情況』、査読有、2009年3月号、2009、pp.188-193。
- 23) 寺島俊穂「民活動とシティズンシップ」『関西大学法学論集』、査読無、第58巻第6号、2009、pp.1-52。
- 24) 菊池理夫「現代コミュニタリアニズム入門—共通善の政治学・政策科学」『公共研究』、査読有、第5巻第4号、2009、pp.54-68。
- 25) 杉田敦「道徳的非難の政治を超えて—『ネオリベ』排除は自明か」『世界』、査読有、2009年3月号、2009、pp.187-193。
- 26) 木部尚志「平等主義的正義への関係論的アプローチ—〈運の平等主義〉の批判的考察を手がかりに」『思想』、査読有、1012号、2008、pp.61-80。
- 27) 菊池理夫「共通善の政策学—ポスト実証主義の政策科学」『法学研究』、査読無、第81巻第8号、2008、pp.53-108。

[学会発表] (計20件)

- 1) 木部尚志「日本近代と神学政治問題——明治憲法体制をめぐる井上毅の思想」、政治哲学研究会(代表:石崎嘉彦・摂南大学・教授)、2012年3月5日、早稲田大学1号館。
- 2) 山崎望「グローバル化時代のデモスについて」、現代規範理論研究会(招待講演)(代表:松井暁・専修大学・教授)、2012年2月25日、専修大学神田キャンパス7号館。
- 3) 菊池理夫「サンデルの共通善の政治学・政策学」、現代規範理論研究会、2011年11月19日、専修大学神田キャンパス7号館774教室。
- 4) 古賀啓太「対テロ戦争とカール・シュミット」、日本平和学会、2011年10月30日、修道大学。
- 5) 山崎望「世界秩序の構造変動と来るべきデモクラシー」について、理論科研研究会(招待講演)(代表:広田照幸・日本大学・教

授)、2011年7月17日、日本大学文理学部研究棟。

6) 山崎望「ポストリベラル／ナショナルな福祉とシティズンシップの模索」、政治思想学会、2010年5月22日、東京大学法学部。

7) Shin CHIBA, `For Realizing Peace in East Asia: Wa, Kyosei, and Japanese Constitutional Pacifism` International Conference: Visions of Peace—The West and Asia, 2009/12/10、東京。

8) 木部尚志“Immigration and Integration Policies in Japan: Immigrants, the Welfare State, and the Labor Market.”EU-Japan Conference, 2009年11月29日 Institut d'études européennes, Brussels(Belgium).

9) 的射場敬一「シティズンシップの歴史的展開」日本政治学会、2009年10月11日、日本大学。

10) 丸山正次「エコロジカル・シティズンシップ—定式化の試みとその意義」、日本政治学会、2009年10月11日、日本大学。

11) 山田竜作、グローバル・シティズンシップ?—その議論の諸次元をめぐる、日本政治学会、2009年10月11日、日本大学。

12) 岡本仁宏『「チャリティとイギリス近代」について』日本NPO学会第11回年次大会、2009年3月22日、名古屋大学。

13) Masao Kikuchi "The Receptivity of Liberalism and the Limits of Justice and Contemporary Communitarianism in Japan" Public Philosophies in the Golden Age: Dialogue with Professor Michael Sandel, 2009年3月20日、千葉大学

14) KIBE, Naoshi, "Immigration and Integration Policies in Japan : At a Crossroad of the Weifa re State and the Labor Market." At a workshop sponsored by the German Institute for Japanese Studies (DTI) on "International Migration in Global Governance : A Japanese Perspective", 2009/1/20, the German Institute for Japanese Studies, Tokyo.

15) 杉田敦「グローバルな連帯と生権力-社会=国民=国家の後に」日本社会学会、2008年11月24日、東北大学。

16) 岡本仁宏「日本の福祉におけるNPO・NGOの役割と課題」日本政治学会日本政治学会研究大会国際シンポジウム、2008年10月12日、関西学院大学

17) 寺島俊徳「市民活動とシティズンシップ—ナショナルなものへの対抗軸として」日本政治学会、2008年10月11日、関西学院大学。

18) 岡本仁宏「市民社会概念の展開とナショナリズム」日本政治学会日本政治学会研究大会、2008年10月11日、関西学院大学

19) 杉田敦「デモクラシーの危機：その現

状と課題」日本政治学会日本政治学会研究大会、2008年10月11日、関西学院大学。

20) 荒木勝「アリストテレスの国際秩序観」日本政治思想学会、2008年5月24日、岡山大学。

〔図書〕(計68件)

1) 「人間、国民、市民」研究会(研究代表者：岡本仁宏)編『人間、国民、市民—市民社会、ナショナリズム、グローバリズムと新しい政治理論』報告書』、2012、pp.218。

2) 的射場敬一、グローバル時代の政治・経済・経営—国士舘大学政経学部創設50周年記念論文集—、国士舘大学政経学会、2012、pp.139-168。

3) 杉田敦(栗原彬)『3. 11に問われて』岩波書店、2012、pp.209。

4) 山崎望『来たるべきデモクラシー』有信堂、2012、pp.293。

5) 千葉眞、アレント政治思想の展開と著者紹介、『アウグスティヌスの愛の概念(再版増補)』みすず書房、2012、pp.263-297。

6) 岡本仁宏、「国民」を疑う、日本政治学会編『年報政治学2011-I 政治における忠誠と倫理の理念化』、木鐸社、2011、pp.11-48。

7) 荒木勝『アリストテレス政治哲学の重層性』創文社、2011、pp.436。

8) 菊池理夫『共通善の政治学—コミュニティをめぐる政治思想』勁草書房、2011、pp.239。

9) 菊池理夫「ユートピア」、古賀啓太編『政治概念の歴史的展開第四巻』晃洋書房、2011、pp.185-206、pp.244。

10) 木部尚志「どうなる、市民社会」、押村高・中山俊宏編『世界政治を読み解く』、ミネルヴァ書房、2011、pp.348。

11) 古賀啓太編著『政治概念の歴史的展開(第四巻)』晃洋書房、2011、pp.247。

12) 古賀啓太「人間の尊厳」古賀啓太編著『政治概念の歴史的展開(第四巻)』晃洋書房、2011、pp.1-33、pp.247。

13) 的射場敬一「市民」古賀啓太編著『政治概念の歴史的展開(第四巻)』晃洋書房、2011、pp.35-68、pp.247。

14) 荒木勝「フロネーシス(知慮)」古賀啓太編著『政治概念の歴史的展開(第四巻)』晃洋書房、2011、pp.69-92、pp.247。

15) 寺島俊徳「権威」古賀啓太編著『政治概念の歴史的展開(第四巻)』晃洋書房、2011、pp.93-122、pp.247。

16) 丸山正次「環境」古賀啓太編著『政治概念の歴史的展開(第四巻)』晃洋書房、2011、pp.155-184、pp.247。

17) 菊池理夫「ユートピア」古賀啓太編著『政治概念の歴史的展開(第四巻)』晃洋書房、2011、pp.185-206、pp.247。

- 18) 千葉眞「終末論」古賀啓太編著『政治概念の歴史的展開（第四巻）』晃洋書房、2011、pp. 207-241、pp.247。
- 19) 杉田敦編著『連続討論「国家」は、いま』岩波書店、2011、226
- 20) 杉田敦（共）、飯田哲也他『原発をどうするか、みんなで決める』岩波書店、2011、pp.61。
- 21) 杉田敦編著『政治の発見 7 守る』風行社、2011、pp.7-40。
- 22) 千葉眞、'On Perspectives on Peace: The Hebraic Idea of Shalom and Prince Shotoku's Idea on War', Noriko Kawamura, Yoichiro Kawamura, and Shin Chiba, eds, *Building New Pathways on Peace*, University of Washington Press, 2011, pp.48-64.
- 23) 寺島俊徳「エスペラントと平和の条件—相互理解と言語民主主義」日本エスペラント図書刊行会、2011、pp.158。
- 24) 富沢克編、『「リベラル・ナショナリズム」の再検討—国際比較の観点から見た新しい秩序像』ミネルヴァ書房、2011、pp.298。
- 25) 菊池理夫「日本におけるコミュニタリアニズムの可能性」、広井 良典・小林 正弥編著『コミュニティー公共性・コモンズ・コミュニタリアニズム（双書 持続可能な福祉社会へ：公共性の視座から 1）、勁草書房、2010、pp.87-109。
- 26) 木部尚志「平等の公共的自己反省—脱多元化への対抗戦略」齋藤純一編『公共性の政治理論』ナカニシヤ出版、2010、pp.23-40、pp.269。
- 27) 古賀敬太『政治思想の源流—ヘレニズムとヘブライズム』風行社、2010、pp.293。
- 28) 杉田敦「二大政党制は定着するのか」、山口二郎編『民主党政権は何をなすべきか』岩波書店、2010、pp.155-169。
- 29) 寺島俊徳「第9章 攻められたらどうするか」、君島東彦編『平和学を学ぶ人のために』世界思想社、2010、pp.187-206。
- 30) 寺島俊徳「第II章 市民活動の理論—アレントの活動概念から」『ソーシャル・キャピタルと市民参加』〔研究双書 第150冊〕（関西大学経済・政治研究所）、2010、pp.33-68、pp.236。
- 31) 丸山正次（共著）Qingzhi Huan(ed.) *Eco-socialism as Politics: Rebuilding the Basis of Our Modern Civilisation*, Springer, 2010, pp.151-162, pp.224.
- 32) Masatsugu Maruyama, "Evaluating Japanese Agricultural Policy from An Eco-socialist Perspective", *Eco-socialism as Politics: Rebuilding the Basis of Our Modern Civilisation*, chapter 10.(in Qingzhi Huan(ed.), Springer, 2010, pp.151-162.
- 33) 藤原孝・山田竜作編『シティズンシップ論の射程』日本経済評論社、2010年、pp.297。
- 34) 杉田敦『政治への想像力』岩波書店、2009、pp.258。
- 35) 杉田敦「社会統合の境界線」、齋藤純一編『自由への問い・社会統合』岩波書店、2009、pp.182-204。
- 36) 千葉眞『「未完の革命」としての平和憲法』岩波書店 2009、pp.262。
- 37) 千葉眞「政治と暴力—一つの理論的考察」、日本政治学会編『年報政治学—政治における暴力 2009-II』、岩波書店、2009、pp.11-30。
- 38) 千葉眞「カントの永遠平和論とコスモポリタニズム」千葉眞編『平和の政治思想史』株式会社おうふう、2009、pp.67-99。
- 39) 千葉眞「現代にグランドセオリーは可能なのか」村上陽一郎・千葉眞編『平和と和解のグランドデザイン—東アジアにおける共生を求めて』風行社、2009、pp. 27-47。
- 40) 富沢克、グローバル時代のナショナリティ—リベラリズムとの関連において、富沢克・カ久昌幸編『グローバル時代の法と政治—世界・国家・地方』成文堂、2009、pp.197-217。
- 41) 古賀啓太編著『政治概念の歴史的展開（第三巻）』晃洋書房、2009、pp.246。
- 42) 寺島俊徳「平和」、古賀啓太編著『政治概念の歴史的展開（第三巻）』晃洋書房、2009、pp.25-54、pp.246。
- 43) 菊池理夫「共同体」、古賀啓太編著『政治概念の歴史的展開（第三巻）』晃洋書房、2009、pp. 55-81、pp.246。
- 44) 富沢克「ナショナリズム」、古賀啓太編著『政治概念の歴史的展開（第三巻）』晃洋書房、2009、pp. 83-104、pp.246。
- 45) 岡本仁宏「パトリオティズム（愛国心）」、古賀啓太編著『政治概念の歴史的展開（第三巻）』晃洋書房、2009、pp. 105-135、pp.246。
- 46) 古賀敬太「コスモポリタニズム」、古賀啓太編著『政治概念の歴史的展開（第三巻）』晃洋書房、2009、pp. 137-166、pp.246。
- 47) Shin Chiba, "Constitutional Pacifism in Post-war Japan," Shin Chiba and Thomas J. Schoenbaum, eds. *Peace Movements and Pacifism after September 11*, Cheltenham, UK and Northampton, MA, USA: Edward Elgar, pp.128-151. 2008, pp.232.

6. 研究組織

(1)研究代表者

岡本 仁宏 (OKAMOTO MASAHIRO)
関西学院大学・法学部・教授
研究者番号：20169155

(2)研究分担者

荒木 勝 (ARAKI MASARU)
岡山大学・社会文化科学研究科・教授
研究者番号：70126829

菊池 理夫 (KIKUCHI MASAO)
南山大学・法学部・教授
研究者番号：90153048

木部 尚志 (KIBE NAOSHI)
国際基督教大学・教養学部・教授
研究者番号：10310327

古賀 敬太 (KOGA KEITA)
大阪国際大学・現代社会学部・教授
研究者番号：90186643

杉田 敦 (SUGITA ATSUSHI)
法政大学・法学部・教授
研究者番号：30154470

千葉 眞 (CHIBA SHIN)
国際基督教大学・教養学部・教授
研究者番号：10171943

寺島 俊穂 (TERASHIMA TOSHIHO)
関西大学・法学部・教授
研究者番号：70155464

富沢 克 (TOMIZAWA KATU)
同志社大学・法学部・教授
研究者番号：60121597

的射場 敬一 (MATOIBA KEIICHI)
国土館大学・政経学部・教授
研究者番号：40219530

丸山 正次 (MARUYAMA MASATSUGU)
山梨学院大学・法学部・教授
研究者番号：10229627

山崎 望 (YAMAZAKI NOZOMU)
駒沢大学・法学部・准教授
研究者番号：90459016

山田 竜作 (YAMADA RYUSAKU)
日本大学・国際関係学部・准教授
研究者番号：30285580
(H22→H23：研究協力者)

(3)連携研究者
()

(4)研究協力者

大澤真幸 (2008年・京都大学〈当時〉)
岡部一明 (2008年・愛知東邦大学)
遠藤比呂通 (2009年・弁護士)
ありむら潜 (2009年・釜ヶ崎のまち再生フォーラム)
大竹弘二 (2009年・南山大学)
立岩真也 (2010年・立命館大学)
石井良規 (2011年・NPO 法人レスキューストックヤード)
天野晴華 (2011年・宮城県松島町圓通院)